

表紙の説明

自然の造りなす「ジュエリーアイス」

末盛眞一 陸自72

「ジュエリーアイス」とは、北海道十勝平野を西から東に流れ、太平洋に注ぐ十勝川の河口付近の氷が太平洋に流れ、波に洗われたり、あるいは氷同士がぶつかり合つて様々な形になり、シケ等で河口にある豊頃町大津の海岸（十勝川右岸の砂浜）に打ち上げられたものである。

天候・気象・海象により差はあるが、一般的に真冬の1月中旬頃から2月下旬頃に見られる。

海の氷と言えば、オホーツク海岸に押し寄せる流水が有名だが、ジュエリーアイスは流水の白色とは違い、無色透明。これが宝石のような透明の輝きをもっていることから、同町出身の写真家が「ジュエリーアイス」と名付けたと言われている。

何といつても、氷点下の寒さの中、打ち寄せる波の音と朝陽（日の出）の映えるところが、自然が造りなす幻想的な世界で、みごとである。

数年前までは、北海道内の写真愛好家が訪れていたが、最近は新聞・雑誌・ネット等で紹介されるようになり、人気のスポットになっている。ご興味のある方は、ネットで検索してみてください。